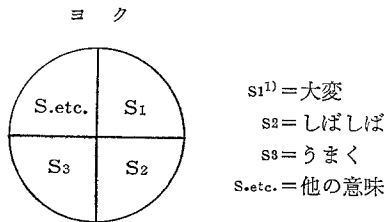


語と意味

——日本語とフランス語の意味上の対応関係——

柿 山 隆

1. 語と意味の関係を考える時に、二つの視点から見ることができよう。一つは、ある語の *champ sémantique* (意味場) からであり、他は、ある *contenu sémantique* (意味内容) を表わす *champ lexical* (語彙場) からである。例えば、日本語、「ヨク」はそれが使われる文脈 (*contexte*) の違いによって異った意味をもってくる。「あの子はヨク勉強する。」「近頃はヨク雨が降る。」「この絵はヨク書けている。」の中のヨクはそれぞれ、「大変」、「しばしば」、「うまく」と言ったようなニュアンスの意味になる。つまり「ヨク」には、「大変」、「しばしば」、「うまく」等の意味の広がり、*champ sémantique* (意味場) があると言えよう。



他方、同一の *contenu sémantique* (意味内容) を表わすのに複数の語が存在することがある。例えば、「今月はヨク雨が降った。」での「ヨク」は文脈からも明らかなように、頻度の高さを表わしているのであり、「しばしば」、「頻繁に」、「たびたび」等によって表わされる。これらの語のグループは頻度の高さを表わす *contenu sémantique* (意味内容) の *champ lexical*

(語彙場) と言えるだろう。

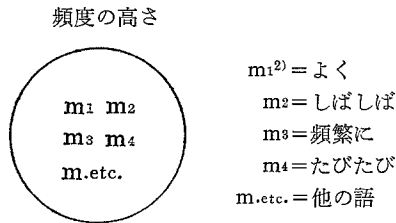


fig. 2

同一言語に留まる限りにおいては、その言語の理解は語の *champ sémantique* (意味場) の識別ができればある程度こと足りるだろう。然し、母国語以外の言語の理解については、その語自体の *fréquence* (使用頻度) が高くても、その語の *champ sémantique* (意味場) の中で一般性の低い *contenu sémantique* (意味内容) で使われる場合、間違っ理解される恐れがある。例えば、フランス語、*jalousie* はフランス語基本語彙 5,000 語中で、*fréquence* (使用頻度) の高さでは、³⁾ 2,382 番目にあるから、あるレベルまでフランス語を学習した人の目に触れる機会も多いはずである。それ故、フランス語、*Par la jalousie, il n'aime pas voir sa femme sortir.* (嫉妬心から、彼は妻が出かけるのを好まない。) は比較的容易に理解され得るだろう。しかし、*Elle regardait par les jalousies son fils jouer dehors.* はどうだろうか？ 文脈から見れば、ここでの *jalousie* は「嫉妬心」ではなく「錠戸」の *contenu sémantique* (意味内容) で使われていると見るのが常識的だろうし、「彼女は錠戸ごしに息子が外で遊ぶのを見ていた。」とでも訳すべき文であろう。従って、*jalousie* の *fréquence* (使用頻度) が高いと言っても、*fréquence* (使用頻度) が高いのは「嫉妬心」の *contenu sémantique* (意味内容) をもつ *jalousie* であって、「錠戸」のそれではないだろう。

一つの言語で表わされる *contenu sémantique* (意味内容) を他の言語で表現するとなると問題は一層複雑になる。何故なら両言語の語の *champ sémantique* (意味場) と *champ lexical* (語彙場) の二つの *axe* (軸) を同

時に考慮に入れなければならないからである。であるから、日本語をフランス語に翻訳する場合の難しさの一つがそこに由来するのである。

以上のことを踏まえながら、日本語の「いっぱいだ」、「いつも」、「いまの」、「上から」、「演奏する」、「教える」、「おもしろい」はフランス語ではどう表現するか検討してみることにする。

2.1 「いっぱいだ」

plein [rempli]⁴⁾ /très plein [bourré, comble]/très plein [bondé, bourré]/couvert/encombré

「この箱はオレンジでいっぱいだ。」「講堂は人でいっぱいだった。」「レセプションでは、テーブルは花でいっぱいだった。」「廊下はイスや机でいっぱいで通れない。」

上の四つの文中の「いっぱいだ」に共通する概念は「容量の限界の状態にある」ことであろう。他方、ニュアンスを異にする要素は「何が」いっぱいなのか、「何で」いっぱいなのかに依る。「何が」(主語)に相当するものを分析すると、「三次元的なもの(空間)」と「二次元的なもの(平面)」に分けられよう。三次元的なものとは具体的には「大小の容れもの」を指す。上に述べた例文の中で言えば「この箱」、「講堂」がそれに相当する。三次元的なものの「いっぱいだ」は connotation (共示)の要素を含まなければ plein, rempli で表わされる。従って、「この箱はオレンジでいっぱいだ。」はフランス語では Cette boîte est pleine [remplie] d'oranges. と言える。「彼のポケットはお金でいっぱいだ。」(Sa poche est remplie [pleine] d'argent.) も同じ類いの文である。

「いっぱいだ」が connoter (共示)されて「いっぱいだ」に「溢れんばかりに」と言ったようなニュアンスが組み込まれると対応するフランス語においても表現上の変化があり、plein に très を添えて très plein と言ったり、或は bourré, comble を使ったりする。それ故、「この箱はオレンジでいっぱい(で溢れそう)だ。」「彼のポケットはお金でいっぱい(で溢れ

そう)だ。」はそれぞれフランス語では *Cette boîte est bourrée [comble, très pleine] d'oranges. Ses poches sont combles [bourrées, très pleines] d'argent.* と表現される。ここで注意すべきは **Cette boîte est très remplie d'oranges.* とか **Ses poches sont très remplies d'argent.* のように, *très rempli* とは言えないことだ。

ある空間(ホール, 広間, 乗物など)が人でいっぱいである場合も, フランス語では *plein, rempli* を使う。「講堂は人でいっぱいだった。」はフランス語では *La grande salle était remplie [pleine] de monde.* のようになる。さらに「すし詰め」の状態を指すときには *bondé, bourré, très plein* が使われる。従って次のように言えるのである。A ce moment-là, l'autobus était bondé [bourré, très plein] (その時, バスはすし詰めだった。)

「レセプションでは, テーブルは花でいっぱいだった。」「廊下はイスや机でいっぱいに通れない。」については「何が」(主語)に相当するものが二次元的なもの(平面)である。この場合, フランス語では, その平面が「何で」いっぱいなのかによって使う語が異ってくる。ただ単に何かで一面に覆われている場合には *couvert* が使われ, 何かで一面覆われていて, それ何かをするのに邪魔になったり障害になったりする場合には *encombré* が使われる。そういうわけで, 「レセプションでは, テーブルは花でいっぱいだった。」はフランス語では *A la réception, les tables étaient couvertes de fleurs.* であるが, 「彼の机はいつも(いろんなもので)いっぱい仕事ができない。」となると, *Sa table est toujours encombrée; on ne peut travailler* となるように *encombré* が使われる。「廊下はイスや机でいっぱいに通れない。」においても, イスや机が通行の邪魔と考えられるから *Le corridor est encombré de chaines et de tables; on ne peut passer.* となるのである。

2.2 「いつも」

toujours [tout le temps]/*toujours* [tout le temps, sans cesse]/

chaque fois que [toutes les fois que]⁶⁾+ind.

「この人はいつもあなたの役に立つ用意がある。」「この人は生涯を通じていつも働いた。」「ぼくが口答えをするといつも母はぼくをぶった。」

上の三つの「いつも」のそれぞれの contenu sémantique (意味内容) の違いは何んだらうか? 「この人はいつもあなたの役に立つ用意がある。」では「用意がある」は状態を示し、「いつも」で修飾されることによって、その状態の継続を示しているものであり、「いつも」は「いつでも」、「常に」などによって置き替えができるだろう。状態の継続を示す「いつも」はフランス語では toujours, tout le temps で表わされる。それ故、「この人はいつもあなたの役に立つ用意がある。」は C'est un homme toujours [tout le temps] prêt à vous rendre service. とフランス語では表現できる。

「この人は生涯を通じていつも働いた。」の「働いた」は状態ではなく動作を示している。「いつも」によって修飾されて「いつも働いた」となれば、動作の継続であり、繰り返しである。ここでの「いつも」は「絶えず」によって置き替えができるだろう。動作の継続、繰り返しを示すフランス語の副詞には toujours, tout le temps, sans cesse がある。「この人は生涯を通じていつも働いた。」はフランス語では C'est un homme qui a toujours [tout le temps, sans cesse] travaillé dans sa vie. と言えるだろう。ここで明らかになることはフランス語の toujours, tout le temps は状態の継続にも、動作の継続、繰り返しにも共に使えるが sans cesse は状態の継続には使えないと言うことである。従って、* C'est un homme sans cesse prêt à vous rendre service. (この人はいつもあなたの役に立つ用意がある。)とは言えない。

「ぼくが口答えをするといつも母はぼくをぶった。」の「いつも」はどうだろうか? この「いつも」は「(…すると) 必ず」「(…する) たびに」の意味である。この場合、フランス語では、chaque fois que+ind. toutes les fois que+ind. の接続詞句を使う。従って、「ぼくが口答えをするといつも母はぼくをぶった。」はフランス語では Toutes les fois que [Chaque

fois que] je lui répondais, ma mère me battait. と表現されるだろう。

2.3 「今の」

actuel/actuel [d'actualité]/d'aujourd'hui

「今の学長は教育法の改革をしたいと思っている。」「公害は今の問題だ。皆の話題になっている。」「この表現は今の言葉ではもう使われない。」「今の子供達は甘やかされすぎている。」

上の四つの例文を見る限りにおいては最初の二つの文の「今の」の *contenu sémantique* (意味内容) には違いがないように見受けられ、「現在の」、「現在ある (いる)」によって置き替えができるだろう。後の二つの例文についても同様のことが言える。後の二つの例文中の「今の」の代りに「現在の」、「今日の」などの表現を使うこともできよう。前者の「今の」と後者の「今の」との違いは、前者の「今の」は時間的な幅が狭く、後者の「今の」は時間的な幅がかなりあると言えるだろう。この違いはフランス語においてはどう表われるだろうか？

上の四つの日本語の例文をフランス語に訳してみると次のように表現できるだろう。「今の学長は教育法の改革をしたいと思っている。」⇒ *Le président actuel de l'université est en faveur d'une réforme des méthodes d'enseignement.* 「公害は今の問題だ。皆の話題になっている。」⇒ *La pollution est un problème actuel [d'actualité]. Tout le monde en parle.* 「この表現は今の言葉ではもう使われない。」⇒ *Cette expression ne l'emploie plus dans le langage actuel.* 「今の子供たちは甘やかされすぎている。」⇒ *Les enfants d'aujourd'hui sont trop gâtés.*

上のフランス語から見ると、日本語の「今の」における、「現在ある (いる)」/「⁷⁾今日の」の関係はフランス語にはないようである。確かに *d'aujourd'hui* は時間的な幅がかなりあって、*le président actuel* (今の学長) と同じ意味で **le président d'aujourd'hui* とは言えない。更には *le langage actuel* (今の言葉) の代りに **le langage d'aujourd'hui* とは言えない。le prési-

dent actuel (今の学長), le langage actuel (今の言葉) のように actuel は時間的幅云々に関わりなく使われているように思えるが * Les enfants actuels sont trop gâtés. とは言わないのである。

こうしてみると actuel/actuel [d'actualité]/d'aujourd'hui の使いわけの基準は時間的幅云々だけではない。基準は、「現在の」、「今ある (いる)」の意味の actuel を別にすれば、共に使われる特定の名詞がそれぞれにあるということにもあるようだ。actuel [d'actualité] (「今の」、「現在の」、「現在ある」) は, La pollution est un problème actuel. Tout le monde en parle. (公害は今の問題だ。皆の話題になっている。) Cette revue ne traite que les questions d'actualité. (この雑誌は現在の問題しかとり扱わない。) のように problème (問題), question (問題) などと共に使われる。

actuel (「今の」、「今日の」) は Cette expression ne s'emploie plus dans le langage actuel. (この表現は今の言葉ではもう使われぬ。) La mode actuelle impose les jupes mini ou maxi. (今の流行では、ミニやマキシが幅をきかしている。) L'époque actuelle est celle de la vitesse. (今の時代はスピードの時代だ。) などのように, mode (流行), époque (時代), langage (言葉), moeurs (風俗) などと共に使われる。

2.4 「(～の) 上から」

du haut de+SN/de dessus+SN/du point de vue de+SN

「丘の上から町が一望で見渡せます。」「テーブルの上から足をどけなさい。」「かれは詩を形の上から研究した。」

上の三つの例文の最初の二つの「上から」には場所的意味があり、最後の「上から」は抽象的の意味で、「上から (場所的)」「上から (抽象的)」の区別は比較的明らかである。「丘の上から町が一望で見渡せます。」と「テーブルの上から足をどけなさい。」との違いは前者の「上から」が haut (高さ)/bas (低さ) の関係による「上から」であり、後者の「上から」は dessus (上)/dessous (下) の関係による「上から」である。

「丘の上から……」は丘のある高さを想定するものであるから、「丘の上から町が一望で見渡せます。」はフランス語では *Ou peut dominer la ville tout entière du haut de la colline.* と表現できるだろう。他方、「テーブルの上から……。」は上下の意味で言っているのであるから、「テーブルの上から足をどけなさい。」は *Enlève tes pieds de dessus la table.* と仏訳できるだろう。

「かれは詩を形の上から……」の「(…)の上から」には場所的な意味はなく、「(…)の点では」、「(…)の面から」によっておき替えができる。それ故、「かれは詩を形の上から研究した。」はフランス語では、*Il a étudié le poème du point de vue de la forme.* と言えるだろう。

2.5 「演奏する」

interpréter/faire [jouer]

「あのピアニストはモーツァルトを見事に演奏した。」「私はあの人たちがアコーディオンを演奏するのをしばしば見かける。」

学生の仏作文の中に **Il a très bien interprété le piano.* (かれはピアノを見事に演奏した。)のような間違いが時として見られる。この種の間違いは日本語の方から来るものだろう。何故なら、日本語では、ある曲を弾くのも、ある楽器を弾くのも「演奏する」という同一の語で表現できるからだ。フランス語では、曲を演奏するのは *interpréter+SN* (曲) と表現され、楽器を演奏するのは、*faire [jouer]+部分冠詞+名詞* (楽器) と表現される。従って、「あのピアニストはモーツァルトを見事に演奏した。」はフランス語では *Ce pianiste a interprété excellemment Mozart.* と言い、「私はあの人たちがアコーディオンを演奏するのをしばしば見かける。」は *Je les vois souvent jouer [faire] de l'accordéon.* と言うのである。

2.6 「教える」

enseigner/enseigner [apprendre]/enseigner [indiquer]/donner/faire

⁸⁾
savoir; informer

「かれは週に10時間教えている。」「私は地理を教えるはめになりたくない。」「かれはこの生徒たちに数学を教えることになっている。」「私は駅に行く一番の近道をあなたに教えられます。」「君の名前と住所を教えてくれ給え。」「そのコンサートの時間と場所と日にちを教えてくれよ。」

上の各例文の「教える」から理解される意味は「何かを相手に伝達すること」ではすべての例文に共通するようだ。日本語においては、*champ sémantique* (意味場) の広がりはあるとしても、「教える」という同一語が使えることから、問題意識はなかなかもちにくい、フランス語においては多少事情を異にする。

「かれは週に10時間教えている。」に於ける「教える」は「授業をする」とおき替えができるだろう。この例文はフランス語では *Il enseigne [donner des cours] dix heures par semaine.* と表現され、*enseigner, donner des cours* の二つの言い方ができる。構文的に言えば、*enseigner* の場合、*enseigner*+⁹⁾*O* となり、*structure superficielle* (表面構造) では、伝統文法で直接目的語に相当する ¹⁰⁾*SN* が見られない。

「私は地理を教えるはめになりたくない。」になると、フランス語では、*Je n'aimerais pas avoir à enseigner la géographie.* と表現され、*syntaxe* (統辞論) の形の上では *enseigner*+*SN*、となり、伝統文法による直接目的語、*SN* が現れてくる。この際、*SN* の内容は教科、スポーツ、技術などである。

「かれはこの生徒たちに数学を教えることになっている。」はフランス語では *Il va enseigner [apprendre] les mathématiques à ces élèves.* と表現される。これを *syntaxe* (統辞論) 的に表記すると *enseigner* [apprendre] +*SN*₁+*à*+*SN*(人)₂ となる。*SN*₁ の内容は上の *Je n'aimerais pas ……* の *SN* と同じ教科、スポーツ、技術などである。ここで明らかになることは、*structure superficielle* (表面構造) に、伝統文法による直接目的語、*SN* (教科、スポーツ、技術など) だけが表れる場合には、*enseigner* のみが使

われ、更に、伝統文法による間接目的語、SN₂ も現れると、enseigner と共に apprendre も使われるということである。従って、enseigner+SN (直目)/enseigner [apprendre]+SN₁ (直目)+à+SN (人・間目) の関係が成り立つ。

「私は駅に行く一番の近道をあなたに教えられます。」この例文での「教える」は「示す」でおき替えることができるだろう。フランス語では Je peux vous enseigner [indiquer] le chemin le plus court de la gare. と表現できる。ここでは、enseigner の synonyme (同義語) として indiquer が使えることになる。

「君の名前と住所を教えてくれ給え。」の「教える」になるとフランス語では前出の動詞の代わりに donner が使われる。従って、上の例文は Donne-moi ton nom et ton adresse. と仏訳できる。このように、伝統文法による直接目的語に nom (名前), adresse (住所) が来ると、動詞「教える」はフランス語では donner となる。

「そのコンサートの時間と場所と日にちを教えてくれよ。」の「教える」はフランス語では、faire savoir+SN (物), à+SN (人) と informer+SN (人)+de+SN (物) の二通りの表現が可能である。それ故、上の例文は、フランス語では、Fais-moi savoir l'heure, l'endroit et la date de ce concert. 或いは Informe-moi de l'heure, de l'endroit et de la date de ce concert. と表現される。ここで注意すべきは faire savoir と informer はそれぞれ syntaxe (統辞論) 上の構造が異なるということである。

ここまでは、構造上、基本的には $\overset{11)}{V}$ (apprendre, enseigner, indiquer, donner, faire savoir, informer)+SN の形を検討してみたが、syntaxe (統辞論) 上機能的に、SN の代りに、 $\overset{12)}{inf}$ (不定法), queP, si (疑問詞) P が現れ、V+inf, V+queP, V+si (疑問詞) P の構造では動詞 V にどのような違いが出て来るだろうか？

SN \Rightarrow inf. の場合、Ma mère in a appris [a enseigné] à aimer les autres. (母は私に他人を愛することを教えてくれた。) のように、structure super-

ficielle (表面構造) では, apprendre [enseigner] à+SN(人)+à+inf. となり, 動詞 apprendre, enseigner を使う。

SN⇒queP の場合も SN⇒inf. と同様, 上の二つ動詞を使い, apprendre [enseigner] à+SN(人)+queP ind. の structure superficielle (表面構造) となり, 従って, Cette expérience nous a appris [a enseigné] qu'il faut savoir se montrer parfois ferme. (この経験は, 時々は断固たる態度をとることが必要だと言うことを教えてくれた。) のように表現する。

SN⇒si (疑問詞) P の場合は, 動詞には, dire, faire savoir が使われ, structure superficielle (表面構造) は dire [faire savoir] à+SN(人)+si (疑問詞) P ind. となる。そういうわけで, Dites-moi [Faites-moi savoir] simplement si elle est de retour. (ただ, かの女が帰っているかどうか教えてください。) と言う。

以上のことから二つのことが明らかになる。第一には, SNの代りに inf. queP, si (疑問詞) が来る時は, いずれの場合にも, それらの structure superficielle (表面構造) は, V+à+SN(人)+à+inf. (queP, si (疑問詞) P) となって, à+SN(人), 即ち, 伝統文法による間接目的語 (datif) が現われるということであり, 第二には, SN⇒inf. SN⇒queP の場合には動詞としては apprendre, enseigner が使われ, SN⇒si (疑問詞) の場合には, 動詞として, dire [faire savoir] が使われると言うことだ。

2.7 「おもしろい」

amusant [comique, drôte]/amusant [drôle, marrant, rigolot]/intéressant

「ピエールは少し酒が入ると大変おもしろい。」「“サザエさん”の漫画は本当におもしろい。」「彼は蝶のおもしろいコレクションをもっている。」

上の三つの例文のうち, 最初の二つの例文の「おもしろい」は日本語では「おかしい」, 「こっけいだ」などによって言い替えができるだろう。「ピエールは……大変おもしろい。」「“サザエさん”の漫画は本当におもしろ

ろい。」の「おもしろい」の違いは、前者の「おもしろい」が人に関してであり、後者の「おもしろい」が物に関してであるということだ。人が「おもしろい」はフランス語では, *amusant, comique, drôle* が使われ, 「ピエールは少し酒が入ると大変おもしろい。」は *Pierre est vraiment amusant [comique, drôle] quand il a un peu bu.* と表現される。物が「おもしろい」はフランス語では *amusant drôle, marrant, rigolo* が使われ, 「“サザエさん”の漫画は本当におもしろい。」は “Sazaé San” est vraiment amusante [*drôle, marrante, rigolote.*] と表現される。尚, *marrant, rigolo* はあらたまった文では使われなくだけた表現である。上の例文からも明らかになることは, *amusant, drôle* は, 人に関しても, 物に関しても使われるが, *comique* は人に関する場合が多く, *marrant, rigolo* は物に関する場合が多いということだ。

「彼は蝶のおもしろいコレクションをもっている。」の「おもしろい」は上の二つの「おもしろい」とは違って, 知的, 精神的意味をもっていて, 「興味深い」, 「興味をひく」を指していて, フランス語では, *intéressant* が使われる。従って, 「彼は蝶のおもしろいコレクションをもっている。」は *Il a une intéressante collection de papillons.* と表現される。

3. 日本語をフランス語に訳すに際してはフランス語の的確な語彙を選び正しい *syntaxe* (統辞論) で文をまとめる必要があるが, 先ずは日本語の文を正しく理解しなければならない。それには第一に日本語の語彙の正確な *contenu sémantique* (意味内容) を文脈から把握することが肝心である。特に複数の *contenu sémantique* (意味内容) を持ち *champ sémantique* (意味場) の広がりがある語彙の場合には注意を要する。例えば, 「いつも」については, いつも [いつでも]/いつも [絶えず]/(…すると) いつも [(…する) たびに], 「今の」については, 今の [現在の, 今ある (いる)] /今の [現在の, 今日の], 「上から」については, 上から (場所の高低)/上から (場所の上下)/上から [点から, 面から], 「演奏する」については,

演奏する(曲)/演奏する(楽器), 「おもしろい」については, おもしろい [こっけいな]/おもしろい [興味深い] 日本語の語の contenu sémantique (意味内容) に対応するフランス語の語も独自の champ sémantique (意味場) をもっているのも考慮に入れなければならない。

更には, 同一の champ lexical (語彙場) に含まれる語も, 語によって, その前後に現れる語も異ってくる場合もあるので syntaxe (統辞論) の上でも注意しなければならない。例えば, comble/bondé, actuel/actuel [d'actualité]/d'aujourd'hui, apprendre/indiquer/donner/faire savoir, comique/marrant [rigolo]

注

- 1) $s_1, s_2, s_3, s_{\text{etc.}}$ はそれぞれ異った contenu sémantique (意味内容) を示す。
- 2) $m_1, m_2, m_{\text{etc.}}$ = $\text{mot}_1, \text{mot}_2, \text{mot}_{\text{etc.}}$ で同一の contenu sémantique (意味内容) を表わす語のグループ。一般的には, これらの $\text{mot}_1, \text{mot}_2, \text{mot}_{\text{etc.}}$ は synonyme (同義語) と言われるものである。
- 3) Alphonse JUILLAND, Frequency Dictionary of French Words, Mouton による。
- 4) [] 内の語句はその前の語句とおき替えのできる語句, synonyme (同義語) を示す。
- 5) 文頭の *印はその文が syntaxe (統辞論) 上正しくないことを示す。
- 6) ind.=直説法
- 7) / は前後の語句の対立関係を示す。
- 8) ; はその前後の語句は同じ意味を表現するが syntaxe (統辞論) と異なることを示す。
- 9) O=zéro で, syntaxe (統辞論) 上, 何も無いことを示す。
- 10) SN=syntagme nominal (名詞句)
- 11) V=動詞
- 12) P=節または文

参考文献

- Maurice Gross, Grammaire transformationnelle du français, syntaxe du verbe, Larousse.
- Alphonse Juilland, Frequency Dictionary of French Words, Mouton.
- Larousse, Dictionnaire du français contemporain.

30 柿山 隆

- Larousse, Dictionnaire du français, langue étrangère, Niveau 2.
- J. ジュボア, 言語学用語辞典, 大修館書店
- A. マルティネ, 言語学事典, 大修館書店
- P. リーチ, C. ロベルジュ, 他, 現代フランス語法辞典, 大修館書店
- P. リーチ, C. ロベルジュ, 他, 現代フランス類語辞典, 大修館書店
- 新村出, 広辞苑, 岩波書店
- 金田一京助他, 新明解国語辞典, 三省堂